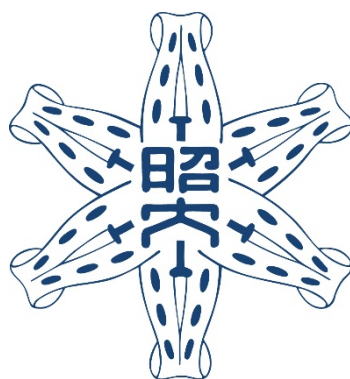


医学教育分野別評価
昭和医科大学
医学部医学科

年次報告書
2025 年度



2025 年 8 月
昭和医科大学医学部医学科

医学教育分野別評価 昭和医科大学医学部医学科 年次報告書 2025 年度

医学教育分野別評価の受審 2018(平成 30)年度
受審時の医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 2
本年次報告書における医学教育分野別評価基準日本版 Ver. 2. 36

1. 使命と学修成果

1.1 使命

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・「至誠一貫」という理念があり、教職員、学生などに浸透している。

改善のための助言

- ・学則の使命と、日常的に用いられている使命とがある。整理して統一された使命を定め、周知すべきである。

改善状況

- ・学部の使命を校名変更を契機に、教育委員会において学生委員と教育委員が再検討した。教授会においても承認した。「至誠一貫」の精神のもと、真心と情熱を持って医学・医療の発展と国民の健康増進と福祉に寄与する人材を育成する。」を医学部医学科の使命として明記する。アドミッション・ポリシー、カリキュラムポリシー、ディプロマポリシーについても改訂した。

今後の計画

- ・医学研究の達成と国際的健康、医療の観点を盛り込むことも検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 1: 教育委員会議事録(2024.5)

資料 2: 教育委員会議事録(2024.6)

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・統一された使命に、医学研究の達成と国際的健康、医療の観点が盛り込まれることが望まれる。

改善状況

- ・校名変更を契機に、教育委員会において学生委員と教育委員が再検討した。教授会においても審議した。

今後の計画

- ・医学部・医学科の使命の中に医学研究の達成と国際的健康、医療の観点を盛り込むことも検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 1: 教育委員会議事録(2024.5)

資料 2: 教育委員会議事録(2024.6)

1.2 大学の自律性および学部の自由度

基本的水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 多くの教職員や、学生、外部有識者を含むカリキュラム検討委員会が設置されている。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 2026 年度から開始される新新カリキュラムに関し、学長主導により学部長会の下部委員会として、「初年次新新カリキュラム検討部会」が組織された。部会の下に「カリキュラム(解剖実習以外)作成に関わる検討委員会」と、「初年次解剖(形態機能)実習プログラムに関わる検討委員会」が位置づけられ、後者にはさらに「アナトマージテーブル操作方法コンテンツの作成 WG」と「カリキュラム(時間割・コマ)作成 WG」が設けられた。
- ・ 「2024 年度 医・歯・薬・保健医療・富士吉田教育部 教育者のためのワークショップ(アドバンスト・ワークショップ)」において、前年開催された法人による「医学部 1 年次カリキュラム検討プロジェクト」による案と、「初年次新新カリキュラム検討部会」が組織された。部会の下に「カリキュラム(解剖実習以外)作成に関わる検討委員会」案の整合性を検討した。
- ・ 新新カリキュラムを開始するため、「富士吉田教育部」に、演習棟の建築が開始された。

今後の計画

- ・ 2025 年度 医・歯・薬・保健医療・富士吉田教育部 教育者のためのワークショップ(アドバンスト・ワークショップ)において、2 年次以降の新新カリキュラムを作成する。

改善状況を示す根拠資料

資料 3: 初年次解剖(形態機能)実習プログラムに関わる検討委員会議事録(2024.4)

資料 4: 2024 年度教育者のためのワークショップアドバンストコース開催概要・報告書

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 教育研究の自由が保障されており、その結果として、4 学部連携教育などの特色あるカリキュラムが実施されている。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 教育委員会を毎月開催した。カリキュラム検討小委員会とカリキュラム検討委員会を開催した。
- ・ 第 56 回日本医学教育学会大会に多くの教育職員が参加し、最新の研究結果を探索した。

今後の計画

- ・ 第 57 回日本医学教育学会大会に、12 演題提出し教育力の向上を計る。
- ・ 第 59 回日本医学教育学会大会を昭和医科大学で主催すべく申請した。

改善状況を示す根拠資料

資料 5: 第 56 回日本医学教育学会大会ポスター・プログラム

資料 6: 第 59 回日本医学教育学会大会主催申請書

1.3 学修成果

質的向上のための水準: 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 医学研究に関して目指す学修成果を定めることが望まれる。

改善状況

- ・ 医学研究に関する学修成果を検討し、策定した。それに合わせて 2024 年度に M5 の 1～3 月で研究(基礎医学講座)を選択可能にし、実際に 9 名が選択した。

今後の計画

- ・ 2025 年度より 5 年次の 1 月～3 月までと 6 年次の 4 月～6 月までの、臨床実習 V-B(診療参加型臨床実習 選択型)のすべての期間において、医学研究を可能とする。

改善状況を示す根拠資料

資料 7: 2024 年度臨床実習 V-B 手引き

1.4 使命と成果策定への参画

基本的水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 卒業時の学修成果を FD で検討したことは評価できる。

改善のための助言

- ・ 使命と学修成果の策定や改変に学生代表など主要な構成者も参画すべきである。

改善状況

- ・ 学生が構成員に含まれる教育委員会において「使命」について検討、審議した。

今後の計画

- ・ 今後も継続的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 1: 教育委員会議事録(2024.5)

資料 2: 教育委員会議事録(2024.6)

2. 教育プログラム

2.1 教育プログラムの構成

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 初年次の全寮制教育と中・高学年での 4 学部連携実習を実施することで、多職種連携教育を実践していることは高く評価できる。

改善のための助言

- ・ 学習意欲を高めるために、2 年次 3 年次におけるカリキュラムの過密化を改善すべきである。
- ・ 学生が段階的に学修成果を修得できるようなカリキュラムを定めるべきである。

改善状況

- ・ 特記すべきこと無し。

今後の計画

- ・ 新新カリキュラムの策定にあたり、基礎医学を初年次に移行させ、これまで 2 年次前期の 4 か月間で学んでいた基礎医学を、一年間をかけて修得する計画である。

改善状況を示す根拠資料

資料 4:2024 年度教育者のためのワークショップアドバンスコース開催概要・報告書

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 多職種連携教育により、チーム医療を実践する上で必要な医師としての能力を生涯にわたって涵養するためのカリキュラムを設定していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 学部連携地域医療実習において、福島第一原子力発電所事故により全町避難を経験した福島県檜葉町で学び、災害、医療資源、福祉などを広く学んだ。
- ・ 臨床実習 V-B（診療参加型臨床実習 選択型）で、6 年次の 9 名が研究活動に従事した。

今後の計画

- ・ 臨床実習 V-B（診療参加型臨床実習 選択型）は次年度から、6 か月間学内外や研究など自由に選択できる。

改善状況を示す根拠資料

資料 7:2024 年度臨床実習 V-B 手引き

2.2 科学的方法

基本的水準： 部分的適合

改善のための助言

- ・ 研究マインドを育成するプログラムをすべての学生が受講できるカリキュラムを構築すべきである。
- ・ 臨床実習の場での EBM の実践をさらに推進すべきである。

改善状況

- ・ 4 年後期から 5 年の診療参加型臨床実習 (臨床実習 V-A) では、担当患者の治療などについて、EBM を基盤に治療・ケアを提案することを必須として、基本的な EBM の実践を学修している。
- ・ 5 年次の「公衆衛生ゼミナール」では、研究立案の学修のため、グループ内で研究計画を複数立案させるなど、新たな工夫を取り入れている。

今後の計画

- ・ 5 年次後期からの選択型診療参加型臨床実習 (臨床実習 V-B) では、担当する複雑な病態と背景を持つ担当患者について、EBM を基盤に最善の医療を提案・実践することを繰り返し、EBM の実践能力のさらに高める。
- ・ 2026 年度以降から 2 年次の「EBM 総論・研究倫理」を昭和医科大学統括研究推進センター (SURAC) にて実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 8:2024 年度シラバス (M2～M6)

質的向上のための水準： 適合

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 5 年後期の選択型参加型臨床実習 (臨床実習 V-B) の期間中に、研究選択を取り入れ、9 名の学生が基礎医学系講座の研究室で 1～2 か月間、研究を実践した。

今後の計画

- ・ 5 年後期の研究選択について、2024 年度の実績を検証し、2025 年度の実施期間、研究内容、募集人数と条件、評価などについて、改善と拡充を図る。

改善状況を示す根拠資料

資料 8:2024 年度シラバス (M2～M6)

資料 9:2024 年度臨床実習 V-B 研究選択者の報告書

2.4 行動科学と社会医学、医療倫理学と医療法学

基本的水準： 部分的適合

改善のための助言

- ・ 行動科学と医療倫理のプログラムを体系化し、責任者を置いて系統的に実践すべきである。

改善状況

- ・ 行動科学(昭和医科大学では、行動医学と呼称)と医療倫理のプログラムを体系化し、責任者を置き授業をした。

今後の計画

- ・ 毎月開催される行動医学・プロフェッショナリズム運営委員会で学修効果を評価し、必要に応じ、今後もカリキュラムの改良に努める。
- ・ 3年次以上のカリキュラムでは、行動医学とプロフェッショナリズムを一つの科目にしていたが、2025年度からは行動医学とプロフェッショナリズムをそれぞれ独立した科目とし、行動医学の中で行動科学と医療倫理の体系化したプログラムを展開する。

改善状況を示す根拠資料

資料 10:2025 年度 2-4 年次 行動医学シラバス

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 高齢化社会における在宅医療、地域医療に対応したカリキュラムを実施していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを 6 年一貫カリキュラムの中で検討し、社会医学系教育の内容を検討することが望まれる。

改善状況

- ・ 具体的なテーマとして、障害や慢性の痛みを抱える人の心理、安楽死や尊厳死に関する法的な問題にも触れながら、医療現場での対応を考えている。また、呼吸器・循環器・消化器・精神・婦人科系などの疾患ごとに、患者の行動や気持ちの特徴を理解し、治療や支援に役立つ視点を身につけることができるプログラムを設けている。

今後の計画

- ・ 取り扱うテーマについては、将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを加味しながら改良していく。

改善状況を示す根拠資料

資料 11:2024 年度 M2-M4 行動医学シラバス

2.5 臨床医学と技能

基本的水準: 部分的適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 臨床能力を十分に修得するため、臨床実習を 72 週に拡大していることは評価できる。
- ・ 4 学部連携臨床実習を通じてチーム医療を教育していることは高く評価できる。
- ・ 研修医がチーム医療のメンバーとして臨床実習における学生教育に参画し、屋根瓦方式が実践されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ すべての学生が重要な診療科で診療参加型臨床実習を十分な期間で経験できるようにすべきである。

- ・ 臨床実習で学生が健康増進と予防医学を体験できるようにすべきである。

改善状況

- ・ 2025年1月より開始した診療参加型実習 V-B は6か月の期間、1か月単位で学生自身が選択した場所で実習をする。学内外(国内外問わず)の医療機関の診療科における実習、基礎医学講座での研究への参加などを選択可能とした。
- ・ 診療参加型実習 V-B では一度選択した学内の診療科の再学習も可能とした。
- ・ 患者への診療参加型臨床実習に関する理解を促進するため、院内掲示や初診時・入院時の配布資料、待合での説明動画などを作製した。
- ・ 臨床実習Ⅳ(全科実習)を欠席した場合は、理由を問わず再実習とすることにより、学修機会を確保した。

今後の計画

- ・ 4年次を対象に、2025年7月に臨床推論に関する講義と演習を実施する。
- ・ 診療参加型臨床実習 V-B における学外での実習や研究活動などは、1か月単位で最大3施設までであったが、今後は最大6施設まで選択を可能とする。

改善状況を示す根拠資料

資料 12:2024 年度臨床実習 V-A 手引き

資料 13:2024 年度別表(M4)

資料 14:患者説明動画 https://www.showa-u.ac.jp/SUH/guide/info/medical_student.html

資料 15:臨床実習 V-B 内規 2024 改訂版

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 低学年から各学年において学生が患者と接触する機会が設けられていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ シミュレーション教育をより充実することによって、臨床技能教育を安全かつ体系的に行うことが望まれる。
- ・ 教育プログラムの進行に合わせて段階的に臨床技能を学べるように教育計画を構築することが望まれる。
- ・ 現在および将来的に社会や医療システムにおいて必要になると予測されることを6年一貫カリキュラムの中で検討し、臨床医学教育の内容を検討することが望まれる。

改善状況

- ・ 2年次後期～4年次前期の基礎・臨床統合教育では、各ブロックでシミュレーション教育を積極的に採用し、アクティブラーニングの一環としても活用した。
- ・ シミュレーション教育に関する委員会の構成委員を刷新し、委員は診療参加型実習の期間内に率先してシミュレーターを利活用したカリキュラムプランニングを実践した。
- ・ シミュレーターの使用状況や活用事例を記録した。

今後の計画

- ・ シミュレーターの使用実績が学生の知識や技能の向上に関与しているか評価する仕組みの構築を計画している。
- ・ シミュレーターの使用と積極的参加を促すための仕組みを臨床実習と基礎・臨床統合教育全体でも応用可能な手法として開発する予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 8:2024 年度シラバス(M2～M6)

資料 16:シミュレーション教育委員会議事録(2024.12)

資料 17:2024 年度シミュレーター使用実績

2.6 教育プログラムの構造、構成と教育機関

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 初年次全寮制教育により学生のモチベーションが高められた上で、専門教育が実践されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 5 年次は、診療参加型臨床実習を 1 年を通じて実施した。7 か月間は臨床実習 V-A（診療参加型臨床実習 必修型）とし、3 か月間は、臨床実習 V-B（診療参加型臨床実習 選択型）であった。

今後の計画

- ・ 初年次に行う早期臨床体験実習において、近い将来の自身のあるべき姿を知るため、本学の附属病院にて医学部 5 年次の診療参加型実習の学生に 1 年次が付いてシャドーイングを行う実習を 2025 年 10 月より導入する。
- ・ 2026 年からの新新カリキュラムにおいては、基礎医学の期間を現在の 2 年次前期（半年程度）から、1 年次の 1 年間とする予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料 12:2024 年度臨床実習 V-A 手引き

資料 7:2024 年度臨床実習 V-B 手引き

資料 18:2025 年度 M1 早期臨床体験実習シラバス

資料 24:2026 年度 M1 新新カリキュラム時間割

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 基礎医学における水平的統合を推進することが望まれる。
- ・ 臨床医学、基礎医学の垂直的統合を推進することが望まれる。
- ・ 臨床医学、基礎医学ともに、選択科目と必修科目の配分を考慮して設定することが望まれる。

改善状況

- ・ 薬理学講座により「基本的な治療薬の薬理」と称した全診療科横断的な頻用される治療薬（コモンドラッグ）に関するシリーズ動画を作製した。
- ・ 基礎・臨床統合教育において病理診断学と臨床医とで学連携して行う授業を計画し、順次開講した。

今後の計画

- ・ 2026 年に開始される新新カリキュラムでは基礎医学科目の学修時間を半年から 1 年間とする。
- ・ 2026 年に開始される新新カリキュラムではバーチャル解剖台を使用した基礎医学の水平統合が計画されている。
- ・ 診療参加型臨床実習 V-B における学外での実習や研究活動などは、1 か月単位で最大 3 施設までであったが、今後は最大 6 施設まで選択を可能とする。

改善状況を示す根拠資料

資料 25:「基本的な治療薬の薬理」のクラスルーム

資料 24:2026 年度 M1 新新カリキュラム時間割

3. 学生の評価

3.1 評価方法

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 4 学部連携教育では、多職種による評価が行われていることは高く評価できる。
- ・ 診療参加型臨床実習の評価にポートフォリオを活用していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 診療参加型臨床実習では、知識・技能・態度を含むパフォーマンス評価を導入すべきである。
- ・ 評価における利益相反についての規程を作成すべきである。
- ・ 評価結果に対する疑義申し立て制度を構築すべきである。

改善状況

- ・ 基礎・臨床統合教育におけるジャーナルクリエーションの評価で、グループ点に加え、個人の貢献度を加味することとした。

今後の計画

- ・ 診療参加型臨床実習（臨床実習 V-B、選択型）において、知識・技能・態度を含むルーブリック評価を導入する。

改善状況を示す根拠資料

資料 26:ジャーナルクリエーション評価票

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 4 年次と 5 年次の総合試験および 6 年次の卒業試験の問題について、事前の査読と事後の評価を組織的に行っている。

改善のための示唆

- ・すべての科目における評価方法について、その信頼性と妥当性を組織的に検証することが望まれる。

改善状況

- ・基礎臨床統合教育(全科)におけるグループワークに学生によるピア評価を導入した。

今後の計画

- ・学生によるピア評価の信頼性と妥当性を組織的に検証する。

改善状況を示す根拠資料

資料 21:ジャーナルクリエーション評価票

資料 22:基礎臨床統合教育運営委員会議事録(2024.6)

3.2 評価と学修との関連

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・1年次の4学部連携教育でe-ポートフォリオを用い、低学年から学生による自己省察を促していることは評価できる。
- ・4週間の診療参加型臨床実習では、ポートフォリオを活用して、指導担当医による評価とフィードバックが、複数回、行われていることは評価できる。

改善のための助言

- ・知識だけでなく、技能・態度も適切に評価し、学修成果の達成を明らかにするように、評価方法の検証と改善を進めるべきである。
- ・形成的評価を有効に活用するために、形成的評価と総括的評価の比重を体系的かつ組織的に設定すべきである。

改善状況

- ・診療参加型臨床実習(臨床実習V-B)において、指導医は、学生へのフィードバックコメントを一週間に一度記載することとした。

今後の計画

- ・臨床実習IV(全科実習)において、学生が提出したワークシートに対する教員からのフィードバックを徹底する。

改善状況を示す根拠資料

資料 23:診療参加型臨床実習(臨床実習V-B)評価教員用マニュアル

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・低学年から統合的学修を促進し、それに適した試験の回数と方法を定めることが望まれる。

改善状況

- ・2026年度の新カリキュラム改変に向けて、評価を含むアドバンスドワークショップを実施した。

・

- ・基礎医学を満遍なく学習させるため、基礎教授会において、試験の実施時期や回数について検討した。

今後の計画

- ・2年次前期はまとめて試験を実施していたが、Ⅰ・Ⅱ、Ⅲ・Ⅳごとにし、学生の負担を軽減する。病態総論ⅠとⅡについても、試験はまとめて実施していたが、分けることとする。
- ・これまで、指導担任を通じて通知されていた評価結果を、速やかに本人に通知することとする。

改善状況を示す根拠資料

資料 4:2024年度教育者のためのワークショップアドバンスコース開催概要・報告書

資料 24:基礎教授会資料(2024.9)

資料 25:2025年度定期試験日程

4. 学生

4.1 入学方針と入学選抜

基本的水準：適合

特記すべき良い点（特色）

- ・1年次終了後の転部入学制度が有効に機能していることは評価できる。

改善のための助言

- ・なし

追加審査

- ・2018年9月14日と9月28日の文部科学省による「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る訪問調査」の結果、①合格補欠者のうちから同窓生子女を優先的に合格させていること、②現役・一年浪人受験生に対し二次試験で加点を行っていること、の2点が指摘された。これらの調査結果から、同年12月14日の文部科学省が公表した「医学部医学科の入学者選抜における公正確保等に係る緊急調査最終まとめ」において不適切な事案として報告された。この結論は「学生の選抜方法についての明確な記載を含め、客観性の原則に基づいて入学方針を策定し、履行しなければならない。」(B4.1.1)に抵触するものであり、審議を停止して、改善状況を確認することとした。2020年2月6日に昭和大学医学部医学科の関係者に対してヒアリングを実施し、昭和大学医学部医学科が「昭和大学医学部入学者選抜に関する第三者委員会」による調査によって社会的説明責任を果たし、2019年度入学者試験選抜において公正に実施されていることを確認した。さらに、2020年度の学生募集要項に公正確保が明示されていることを確認した。また、「入学者選抜試験検証委員会」を設置して、調査・改善を実施して適宜改善を行う計画であることも確認した。

改善状況

- ・2026年度入学者選抜より公募推薦枠を新設することを決定した。

今後の計画

- ・2027年度入学者選抜より指定校推薦枠を設けるかについて検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 26:医学部入試常任委員会議事録(2024.7)

資料 27:医学部入試常任委員会議事録(2024.10)

資料 28:4 学部入試常任委員会議事録(2025.3)

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・「教育者のためのワークショップ」により、教員の意見を広く求めてアドミッション・ポリシーを見直している。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 2025 年 4 月 1 日より校名が昭和医科大学に変更されることから、アドミッション・ポリシーをはじめ 3 ポリシーの見直しを行った。結果として、アドミッション・ポリシーについての変更はなかった。

今後の計画

- ・ 特記すべきことなし

改善状況を示す根拠資料

資料 29:統括教育推進室会議議事録(2025.1)

資料 30:学部長会議議事録(2025.2)

4.2 学生の受け入れ

基本的水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 十分な教員を擁し、適切な入学者数を決めていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

追加審査

- ・ 平成 29 年度と平成 30 年度の受験者のうち 3 名が平成 31 年 4 月に追加入学した。令和 2 年度から令和 4 年度における入学定員が従来より 1 名減少して 119 名となる。

改善状況

- ・ 各県の教育関係者と協議し、2025 年度入学試験の募集定員は 2024 年度と同様、一般選抜 I 期 83 名・II 期 18 名、卒業生推薦 7 名、特別協定校推薦 2 名、静岡県地域枠 8 名、新潟県地域枠 7 名、茨城県地域枠 4 名、山梨県地域枠 2 名とした。

今後の計画

- ・ 2026 年度入試から卒業生推薦枠を 7 名から 10 名に増員し、公募推薦枠を 10 名の定員で新設する。

改善状況を示す根拠資料

資料 31:2026 年度入試募集要項

資料 26:医学部入試常任委員会議事録(2024.7)

資料 27:医学部入試常任委員会議事録(2024.10)

資料 28:4 学部入試常任委員会議事録(2025.3)

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 地域別選抜(大学入試センター試験利用入試)により、全国各地からの入学者を選抜している。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 特記すべきことなし

今後の計画

- ・ 地域枠の申し入れがある長野県、群馬県について設置を検討する。
- ・ 各地域枠の募集定員が適切かどうか、定期的に検討する。

改善状況を示す根拠資料

資料 27:医学部入試常任委員会議事録(2024.10)

4.3 学生のカウンセリングと支援

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 指導担任制度が1年次から6年次までの全学生のために整備されている。
- ・ 指導担任が替わっても情報を共有しながら、6年間を通して連続的な指導を行っていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 初めて旗の台キャンパスに通う新2年生とは、登校初日(オリエンテーションの後)に指導担任と面談する機会を設けた。
- ・ コロナ禍では指導担任と学生との直接の対面での面談も制限されていたが、原則、対面での面談に戻した。

今後の計画

- ・ 昭和医科大学 IR 委員会で学生および教員を対象にアンケート調査を実施し、その結果に基づいて問題点を抽出指導担任制度の改善を図る。
- ・ これまで修学支援担当教員間で行っていた意見・情報交換会を、2025年度からは指導担任も含めた意見・情報交換会とする。

改善状況を示す根拠資料

資料 32: 指導担任一覧

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 学業成績不振学生に対する修学支援制度が 2 年次から 4 年次まで整備されている。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 修学支援ガイドラインの改定を行った。従来は、支援対象を前年度の席次下位 10%と限定していたが、条件や人数の制限を設けず、支援が必要と判断された学生を対象とするように変更した。

今後の計画

- ・ 昭和医科大学 IR 委員会で支援対象学生の成績の変化を分析する。

改善状況を示す根拠資料

資料 33: 修学支援ガイドライン

4.4 学生の参加

基本的水準: 部分的適合

改善のための助言

- ・ カリキュラム検討委員会とプログラム評価委員会に学生が積極的に参加すべきである。

改善状況

- ・ 医学部の使命の策定に全学年の学生が参加した。
- ・ 教育委員会において、学生がプログラムの管理、評価、そのほかの諸事項について、全学年の学生が、毎月活発に発言した。

今後の計画

- ・ 今後も学生からの意見を積極的に聴取するとともに、教育プログラムの改善に繋げていく。

改善状況を示す根拠資料

資料 1: 教育委員会議事録(2024.5)

資料 2: 教育委員会議事録(2024.6)

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ スチューデント・インストラクター (SI) 制度を設けて、学生の教育支援活動を奨励していることは評価できる。
- ・ 学生が継続して白馬と北岳での診療所支援を行うことを大学が奨励していることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ なし

改善状況

- ・ 臨床実習において、学会発表、白馬診療部や北岳診療所での活動、および学生総合体育大会などへの参加による欠席については、申請書を提出のうえ欠席を認める事とした。
- ・ ICEP (International Collaboration and Exchange Program)への正式加入を目指し、学生を募り活動を開始した。
- ・ 医学部の学生による、附属病院内での看護助手アルバイトを奨励している。

今後の計画

- ・ 特記すべきことなし

改善状況を示す根拠資料

資料 34:部活動による欠席申請書

資料 35:2024 年度 ICEP 受入留学生

5. 教員

5.1 募集と選抜方針

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教員が職種や職位とは無関係に「教育職員」と呼ばれ、教員としての自覚を育んでいることは評価できる。

改善のための助言

- ・ 新規採用教員の募集と選抜には、教育業績の評価基準を明確にすべきである。
- ・ 指導的立場の女性教員の増加に取り組むべきである。

改善状況

- ・ 特記すべきことなし

今後の計画

- ・ 新規採用教員の募集と選抜における教育業績の評価基準を教授会等で検討する。
- ・ 講師以上の教員における女性教員の割合をモニタリングする。

5.2 教員の活動と能力開発

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 新しい課題や活動に関するワークショップ・講習会・説明会など、多彩な FD を頻回に開催しており、熱意のある教員が積極的に参加している。

改善のための助言

- ・ 全教員が必修で参加する講習会形式の FD を実施するなど、個々の教員がカリキュラム全体を十分に理解すべきである。

改善状況

- ・ 「2024 年度 昭和大学医・歯・薬・保健医療・富士吉田教育部教育者のためのワークショップアドバンストコース」を開催(2024 年 8 月 1 日-2 日)し、「医学部における新新カリキュラム(2026 年度開始のカリキュラム)」について、11 名の基礎講座教授・講師と 5 名のファシリテータ(医学教育学講座 3 名および臨床教育職員 2 名)、医学部長、学長、事務職員らと検討した。
- ・ 「第 14 回昭和大学医学部教育者のためのワークショップ(ビギナーズ)」を開催(2024 年 8 月 25 日-27 日)した。“学習成果基盤型教育(OBE)に基づくカリキュラムプランニングの基本を学修するとともに、昭和大学の教育職員として「どのような医療人を育てたいのか?」、「どのような教育をすべきか?」について検討し、共有する”ことを目的とし、新任や講師以上に昇進した教育職員が医学部から 14 名が参加した。
- ・ 全科から選出された「教育担当者会」を 2 回開催し、診療参加型臨床実習の円滑な導入と省察を共有した。
- ・ 「ファシリテータ養成ワークショップ」を開催し(2024 年 9 月 28 日)、PBL 教育の向上を目指した。
- ・ 「大学院生プレ FD」を開催(2024 年 11 月 9 日-10 日)し、将来教育職員となる大学院生に、カリキュラム全体の理解と能力開発を目指した。
- ・ 学祖祭において、著しい教育功績を納めた教育職員を顕彰した。
- ・ 全教育職員対象の FD を継続し、開催している。
- ・ 学生生活指導のための教育職員ガイダンスを継続して開催している。

今後の計画

- ・ 「2025 年度昭和医科大学医・歯・薬・保健医療・富士吉田教育部教育者のためのワークショップアドバンストコース」を開催(2025 年 8 月 17 日-18 日)し、基礎系および臨床系講座の教授、医学部長、教育委員長、学長、理事長、学務系事務職員が参加し、「新新カリキュラム(2026 年度開始のカリキュラム)」の作成を進める。
- ・ 「第 15 回昭和医科大学医学部教育者のためのワークショップ(ビギナーズコース)」を開催(2025 年 8 月 1 日-3 日)する。
- ・ ファシリテータ養成ワークショップや、大学院生プレ FD とともに例年通り実施する。
- ・ 助教対象 FD を年 2 回程度開催する。

改善状況を示す根拠資料

資料 4:2024 年度教育者のためのワークショップアドバンストコース開催概要・報告書

資料 36:2024 年度教育者のためのワークショップビギナーズコース開催概要・報告書

資料 37:2024 年度ファシリテータ養成ワークショップ概要

資料 38:2024 年度大学院生プレ FD 概要

資料 39:2024 年度全専任教職員対象 FD 講習会

質的向上のための水準: 適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 学生 1 人あたりの教員数が 1.69 人と多く、特に臨床医学系の教員の占有率が高く、臨床実習で手厚い指導ができていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ 教育業績の評価基準を策定し、教育活動を確実にモニタすることで、教員の昇進の方針に反映させることが期待される。
- ・ 令和5年4月1日から、選考基準・昇進の基準について策定した(教授は原著論文20編以上、准教授は原著論文10編以上、講師は原著論文5編以上)。

改善状況

- ・ 特記すべきことなし

今後の計画

- ・ 特記すべきことなし

改善状況を示す根拠資料

資料40:昭和医科大学教育職員選考基準申し合わせ

6. 教育資源

6.1 施設・設備

基本的水準：部分的適合

改善のための助言

- ・ 基本的な教育の施設・設備は整備されているが、全体的に設備は狭隘で老朽化が進んでいる。多様な教育手法に適した設備を設置すべきである。
- ・ 学生・研修医が自己学修やリフレッシュをするための十分なスペースを確保できるように、施設を整備すべきである。
- ・ 放射線管理区域内での実習の際には、放射線防護に努めるべきである。

改善状況

- ・ 鷺沼キャンパス整備事業が開始され、2024年10月より工事が着工された。本事業は旗の台キャンパスの校舎整備計画の一環として実施されている。鷺沼キャンパスにおいては医学部、歯学部、薬学部の2、3年次と4年次の一部、保健医療学部の2～4年次、助産学専攻科の学生の合計2,000人が共に学ぶキャンパスとして整備される。
- ・ 富士吉田キャンパス整備事業が開始され、2024年11月より新実習棟の建築工事が着工された。

今後の計画

- ・ 鷺沼キャンパスは2028年3月竣工予定であり、同年4月より講義・実習等が行われる予定である。
- ・ 富士吉田キャンパスの新実習棟は2026年2月竣工予定であり、同年4月より講義・実習等が行われる予定である。

改善状況を示す根拠資料

資料41:鷺沼キャンパス整備事業

資料42:富士吉田キャンパス整備事業

6.2 臨床実習の資源

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 7つの附属病院と1つのクリニックを擁し、十分な臨床トレーニング施設を確保していることは評価できる。
- ・ 「4大学間の学生教育交流会」の協定によって、他大学で臨床実習が受けることができる。

改善のための助言

- ・ 学生が受け持つ患者の数と疾患分類を常に把握し、学生が経験する疾病の偏りを是正すべきである。
- ・ シミュレーションセンター(スキルス・ラボ)を拡充すべきである。
- ・ 全教員ならびに学外指導者に対するFDをよりいっそう推進すべきである。

改善状況

- ・ 特記すべきことなし

今後の計画

- ・ シミュレーション教育運営委員会の構成委員を刷新し、効率的な運用を目指し、他施設の優れた事例を参考にした運用システムの導入を検討する。
- ・ 助教などの若手～中堅教員を対象としたFD(Faculty Development)を開催する。

改善状況を示す根拠資料

資料 43:2025 年度教育委員会各種委員会一覧

資料 44:2025 年度助教 FD 開催概要

6.3 情報通信技術

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学生優先の電子カルテ端末が病棟に用意されていることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ Wi-Fi 環境等の整備が順次進んでいる。
- ・ 教育委員会に、「ICT 基盤教育委員会」を設置し、既存のシステムからの移行と新システムの有効な利用を模索した。
- ・ Microsoft365 のライセンスを教員および学生に付与した。

今後の計画

- ・ 新システムを利用した効率的なシステムや運用の改良を続ける。

改善状況を示す根拠資料

資料 45:マイクロソフト 365 ライセンス配布のお知らせ

資料 46:ICT 基盤教育委員会議事録(2024.11)

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 診療参加型臨床実習の学生に携帯通信端末を所持させることが望まれる。
- ・ 医療安全の対策を考慮した上で、学生が本物のカルテに記載することが望まれる。
- ・ e-ラーニングコンテンツの充実が望まれる。

改善状況

- ・ 診療参加型臨床実習に入る前に、学生には診療録の記載に関する講義と演習を行い、円滑に実習に参加できるように計画した。

今後の計画

- ・ 特記すべきことなし

改善状況を示す根拠資料

資料 47: 診療録の書き方

6.4 医学研究と学識

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ より多くの学生が研究に触れる機会を設けることが望まれる。

改善状況

- ・ 臨床実習 V-B (診療参加型臨床実習 選択型)において、3 か月間は研究を選択でき、2 か月連続した研究も可能とした。9 名が研究を選択した。

今後の計画

- ・ 研究期間を 6 か月まで拡張し、臨床実習 V-B (診療参加型臨床実習 選択型)のすべての期間で、国内外のどこの研究期間で研究することも可能にする。

改善状況を示す根拠資料

資料 7: 2024 年度臨床実習 V-B 手引き

6.5 教育専門家

質的向上のための水準： 適合

特記すべき良い点 (特色)

- ・ 「教育者のためのワークショップ (ビギナーズとアドバンスト)」が開催されていることは評価できる。

改善のための示唆

- ・ FD のテーマが PBL などに限定され、参加者も比較的少人数である。幅広いテーマと多くの教員が参加できる FD の開催も望まれる。

改善状況

- ・ 第 56 回日本医学教育学会大会 (東京都)において、医学部医学教育学講座から約 20 の演題を発表・発信するとともに、最新の知見を得た。

- ・医学教育学講座に教育の専門家を目指す大学院生が2024年度に2名が入学した。
- ・マルチドクターコースに、6年次2名、5年次2名の4名が在籍し、教育の専門家を目指している。

今後の計画

- ・医学教育学講座から、「日本医学教育学会認定 医学教育専門家」を新たに輩出する。
- ・引き続き、日本医学教育学会の各種委員会や学会大会への参加を通じ、教育専門家としての最新の知見を得る。

改善状況を示す根拠資料

資料 48: 大学院生、マルチドクターコース履修者名簿(医学教育学講座)

資料 5: 第56回日本医学教育学会大会ポスター・プログラム

7. プログラム評価

7.1 教育プログラムのモニタと評価

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・プログラム評価委員会、昭和大学 IR 室、IR 委員会などを設置し、プログラム評価を開始している。
- ・教育委員会、臨床実習責任者会議、富士吉田教育部で課題の特定が行われている。

改善のための助言

- ・学修成果基盤型教育を構築し、学修成果についてプログラムを包括的に評価すべきである。
- ・昭和大学 IR 室により全学に共通のデータ収集はなされているが、医学部の教務・学務に関連したデータを系統的、組織的に収集し、解析することで教育プログラムの改善に反映させる体制を整えるべきである。
- ・ブロックやユニット内のカリキュラム評価は行われているが、ユニット間の調整や、カリキュラム全体の調整・評価を行うべきである。
- ・特定された課題をプログラム評価委員会に集約し、カリキュラム検討委員会においてカリキュラムを改善することにより、PDCA サイクルを機能させるべきである。

改善状況

- ・医学部 IR 委員会で、地域枠入学者、卒業生推薦枠入学者に関する入学後の成績を分析した。前者では静岡県枠の学生に成績不良者が多かった。
- ・医学部 IR 室運営委員会において、入学試験で国語選択とそれ以外の入学者における入学後の成績を分析した。結果として、選択による成績には差が無いことが証明された。
- ・昭和大学 IR 室運営委員会において、指導担任制度の実態調査を実施した。結果として、制度は良く機能しており、細かい問題点が浮かび上がった。

今後の計画

- ・昭和医科大学 IR 室運営委員会において、学生の臨床実習の実態調査(カリキュラム、教員側の理解や負担度、学生の満足度など)について調査し、臨床実習の改善に資する。

改善状況を示す根拠資料

資料 49:医学部 IR 委員会議事録(2024.9)

資料 50:医学部 IR 委員会議事録(2025.1)

質的向上のための水準: 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 個別の授業、講義、実習の評価は行っているが、学修成果についてプログラムを包括的に評価することが望まれる。
- ・ プログラム評価委員会がプログラムを包括的に評価することが望まれる。

改善状況

- ・ プログラム評価委員会を開催し、学内外からプログラムに対する意見の評価を得た。
- ・ 本年度も全学生を対象に、教育目標の到達度に関する自己評価アンケートを実施した。

今後の計画

- ・ 教育プログラムの評価を、プログラム評価委員会、教育委員会(学生からの意見)、到達度アンケート、卒業生が働く機関からのアンケートなどから実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 51:プログラム評価委員会議事録(2025.2)

資料 52:医学部卒業生臨床研修先対象 教育に関する調査

7.2 教員と学生からのフィードバック

基本的水準: 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 指導担任制度により学生の要望を聞いている。
- ・ 教育委員・学生委員懇談会において、学生代表からカリキュラムへの要望を聞いている。

改善のための助言

- ・ 授業や試験について教員からも系統的に意見を聴取し、分析して対応すべきである。
- ・ 個々の授業のみならず、プログラムに関して学生および教員から系統的に意見を聴取し、分析して対応すべきである。

改善状況

- ・ 教育委員会・カリキュラム検討委員会において、教員や学生からの意見を徴収している。
- ・ 全教員の講義において授業アンケートを実施している。
- ・ アクティブラーニングの評価法について、学生や教員の意見を聞きながら改良した。

今後の計画

- ・ 2年生の前期定期試験について、1回の試験の負担を軽減するため、2025年度からは6月と8月の2回に分けて実施することにした。
- ・ 昭和医科大学 IR 室運営委員会で全教員を対象とした臨床実習に関するフィードバックを実施する

改善状況を示す根拠資料

資料 25:2025年度定期試験日程

質的向上のための水準： 部分的適合

改善のための示唆

- ・ 学生や教員の意見に基づいて、プログラムを改編・開発することが望まれる。

改善状況

- ・ 医学部プログラム評価委員会を継続的に開催し、医学部教員や学生のみならず、他学部の代表者、他大学の教育関係者、同窓会長や父兄会会長、模擬患者代表にも出席の上、現行のプログラムに関して広く意見を収集した。
- ・ 2026年度からの新新カリキュラムの改編に向け、学長主導で初年次新新カリキュラム検討部会(初年次解剖(形態機能)実習プログラムに関わる検討委員会、カリキュラム(解剖実習以外作成に関わる検討委員会))を設置し準備を進めた。

今後の計画

- ・ 今後も、定期的に医学部プログラム評価委員会、新新カリキュラム検討部会を開催し、プログラムの改善に努める。

改善状況を示す根拠資料

資料 53:2024年度プログラム評価委員会委員一覧

資料 51:プログラム評価委員会議事録(2025.2)

資料 3:初年次解剖(形態機能)実習プログラムに関わる検討委員会議事録(2024.4)

資料 54:カリキュラム(解剖実習以外)作成に関わる検討委員会議事録(2024.12)

資料 55:カリキュラム(解剖実習以外)作成に関わる検討委員会議事録(2025.2)

7.3 学生と卒業生の実績

基本的水準： 部分的適合

特記すべき良い点(特色)

- ・ 教員に対して3ポリシーの認知度アンケートを実施している。
- ・ 2017年からプログラム評価委員会を設置している。

改善のための助言

- ・ 学修成果に関して卒業生の実績を多面的に評価すべきである。
- ・ 学生や卒業生の実績評価に基づいてカリキュラムを改革すべきである。

改善状況

- ・ 学生課が主導し、本年も卒業生が働く施設における卒業生の達成度を調査した。
- ・ 教育委員会、プログラム評価委員会、カリキュラム検討委員会などでは、学生の実績が毎回報告された。

今後の計画

- ・ 卒業生の実績を分析するため、医学教育学講座/医学教育推進室に担当者を置き、医学部 IR 委員会を活性化する。

改善状況を示す根拠資料

資料 52:医学部卒業生臨床研修先対象教育に関する調査

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 学業成績不振者の情報が修学支援担当教育職員懇談会にフィードバックされている。

改善のための示唆

- ・ 学生の実績に関する情報がフィードバックされる委員会を明確にし、包括的な分析や改善に繋げることが望まれる。

改善状況

- ・ 学生カウンセリングについて、統括教育推進室へフィードバックされ、カウンセラーの人数を増員して対応することとした。
- ・ 学生の実績に関する情報は、学生部に集約され、学生部長を中心に包括的に分析され改善に結びつけた。
- ・ 留年学生、休学希望者、復学希望者への面談を医学部長、教育委員長、学生部長、指導担任および修学支援教員により実施した。

今後の計画

- ・ 初年次から臨床実習を開始する新カリキュラムの学生の実績を分析し、教育委員会へフィードバックする。

改善状況を示す根拠資料

資料 56: 学部長会議事録(2025.1)

資料 57: 指導担任制度における実態調査について

7.4 教育の関係者の関与

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ プログラム評価委員会に、教員以外に学生、事務職員、看護部長、保護者会、医師会長など多くの教育関係者が含まれることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 全病院の各診療科から選出された教育担当者と連携を行いながらプログラムのモニタと評価を実施した。

今後の計画

- ・ 昭和医科大学 IR 室運営委員会にて、臨床実習の実施・運営方法において問題点があるかを確認するアンケート調査を実施する。

改善状況を示す根拠資料

資料 58: 教育担当者全体会議事録(2024.12)

質的向上のための水準： 部分的適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 2015 年度にチーム医療に関する卒業生のアンケートを実施している。

改善のための示唆

- ・ プログラムを評価し、結果を公開することが望まれる。
- ・ 教育の協働者が、卒業生の実績に基づきプログラム評価委員会へフィードバックできる体制を構築することが望まれる。

改善状況

- ・ 卒業時アンケートを実施し、調査結果は大学のホームページの公表と合わせて、各学部でフィードバックをした。
- ・ 新新カリキュラムに関して、「カリキュラム(解剖実習以外)作成に係る検討委員会」に基礎医学教員、他学部の教員など全学部における教育関係者含めて開催をした。
- ・ プログラム評価委員会を開催し、広い範囲の教育の関係者にカリキュラムや卒業生の実績に関するフィードバックを求めた。

今後の計画

- ・ 今後も卒業時アンケートの調査結果を関連委員会にフィードバックし、より広い範囲の教育の関係者からの意見を徴収する。

改善状況を示す根拠資料

資料 51:プログラム評価委員会議事録(2025.2)

8. 統轄および管理運営

8.4 事務と運営

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 教育プログラムの変更に伴い、医学教育推進室と昭和大学 IR 室、IR 委員会が設置されている。

改善のための助言

- ・ SD は行われているが、教育に関する内容を充実することが望まれる。

改善状況

- ・ 事務局は、部長対象、課長対象、係長対象など、年間約 15 の SD を開催し、教育を含む大学の教育、運営および資源の配分などを学んだ。今年度はその大部分を、富士吉田キャンパスで実施し、寮生活の一端を体験した。
- ・ ビギナーズ・ワークショップとアドバンスド・ワークショップには、学事部の事務職員が数多く参画し支援している。

今後の計画

- ・ なし

改善状況を示す根拠資料

資料 59:2024 年度事務局研修・ワークショップ一覧

8.5 保健医療部門との交流

基本的水準： 適合

特記すべき良い点（特色）

- ・ 早期臨床体験実習や地域医療実習などで、保健医療部門、診療所・クリニックなど多くの地域医療機関と連携・交流していることは評価できる。

改善のための助言

- ・ なし

改善状況

- ・ 3年次の「地域医療実習」は、2024年度にはコロナ禍以前と同等の診療所・クリニックの協力のもとで実施することができた。また、協力施設対象の地域医療実習説明会を開催し、交流を深めた。
- ・ 地域枠入学生がいる静岡県、新潟県、茨城県との交流を促進した。

今後の計画

- ・ 従来、3年次と5年次に実施していた「地域医療実習」を、新カリキュラムでは3年次と6年次(2025年度から)に実施予定であり、6年次では従来以上に能動的、参加型の実習となるように準備を進める。
- ・ 地域枠入学生がいる静岡県、茨城県との交流を促す。
- ・ 2026年度の1年次からの新たなカリキュラムで、近隣の保健医療部門(保健所など)、診療所・クリニックなどと連携・交流した実習について検討を進める。

改善状況を示す根拠資料

資料 60:2024 年度 M3 地域医療実習手引き

資料 61:2024 年度地域医療実習説明会次第

資料 62:昭和大学地域枠等委員会資料